

平成30年11月26日
国土交通省 中部地方整備局
静岡国道事務所



静清バイパスが全線4車線化

1. 概要

国道1号^{せいしん}静清バイパスの開通について、以下のとおりお知らせします。この開通により、静清バイパス全線（延長24.2km）が4車線化します。

<開通区間>

まきがや^{せいしん}牧ヶ谷IC～丸子^{まりこ}IC 延長3.0km

<開通予定日>

平成30年12月22日（土）

※開通式典の概要や開通時間などについては、後日お知らせいたします。

<開通による主なストック効果>

- 渋滞解消による通過時間の短縮 【別紙1】
- 国道1号（現道）の交通環境改善 【別紙2】
- 港湾物流の更なる活性化 【別紙3】
- 地場産業（緑茶）の活性化 【別紙4】

2. 配布先

静岡県政記者クラブ、静岡市記者クラブ

3. 問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 静岡国道事務所

副所長 宮林^{みやばやし たつお} 辰雄

計画課長 三治^{さんじ つたえ} 伝

TEL 054-250-8904 FAX 054-252-5739

国道1号静岡清バイパス 事業概要

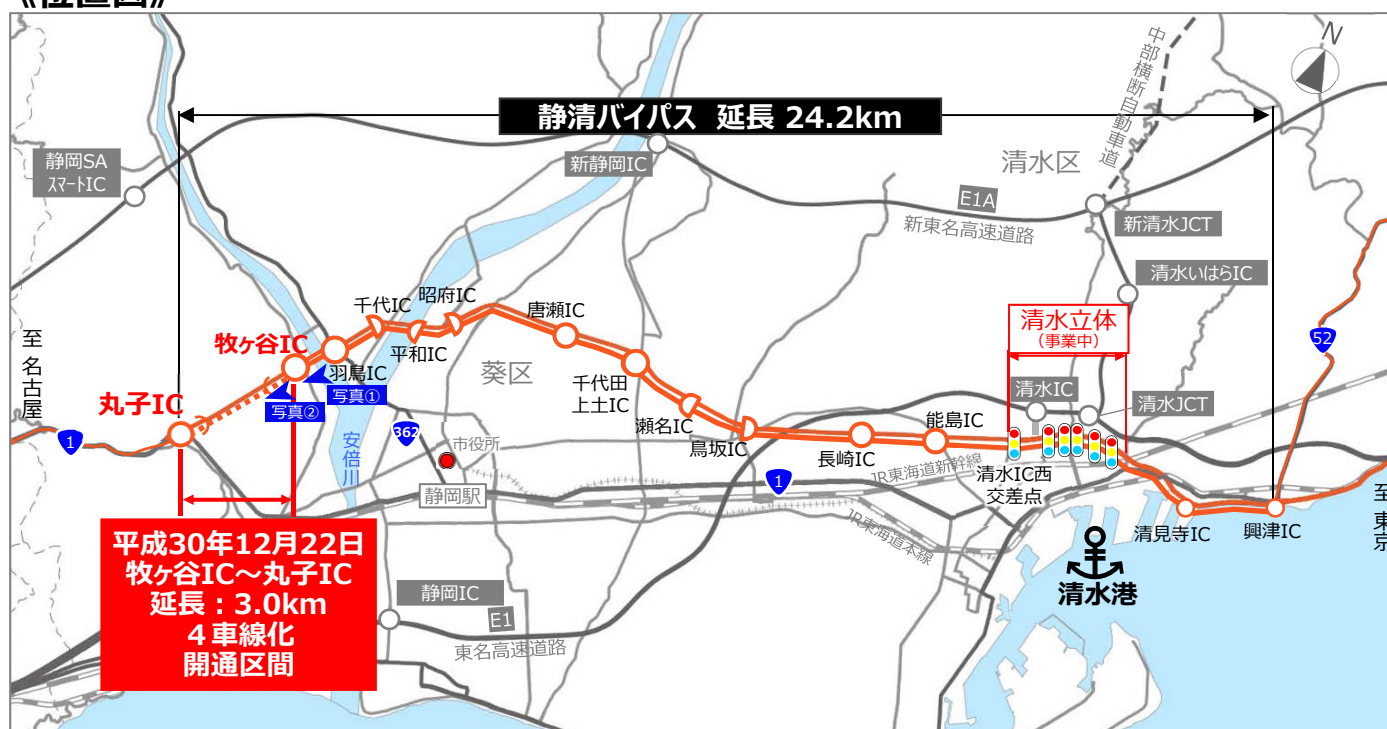
- 国道1号静岡清バイパスは、静岡市中心部を通過する国道1号の交通を迂回させ、市内の日常生活における利便性の向上・交通混雑の緩和・交通安全の確保を図る延長24.2kmの道路です。
- また、市内を南北に延びる幹線道路と接続し、物流拠点である清水港や東名・新東名などの高規格幹線道路と接続する静岡都市圏の経済発展に欠かすことのできない道路です。

《事業の経緯》

これまでの開通経緯	平成 9年 3月	・全線暫定2車線開通 ※一部平面区間
	平成 18年 3月	・千代田上土IC～唐瀬IC間4車線化
	平成 20年 3月	・清水IC西～鳥坂IC間4車線化 ・昭府地区 暫定2車線立体化
	平成 24年 2月	・唐瀬IC～羽鳥IC間 4車線化
	平成 27年 3月1日	・羽鳥・牧ヶ谷ICフルインター化 ・鳥坂IC～千代田上土IC間4車線化
開通	平成30年12月22日	・牧ヶ谷IC～丸子IC 4車線化



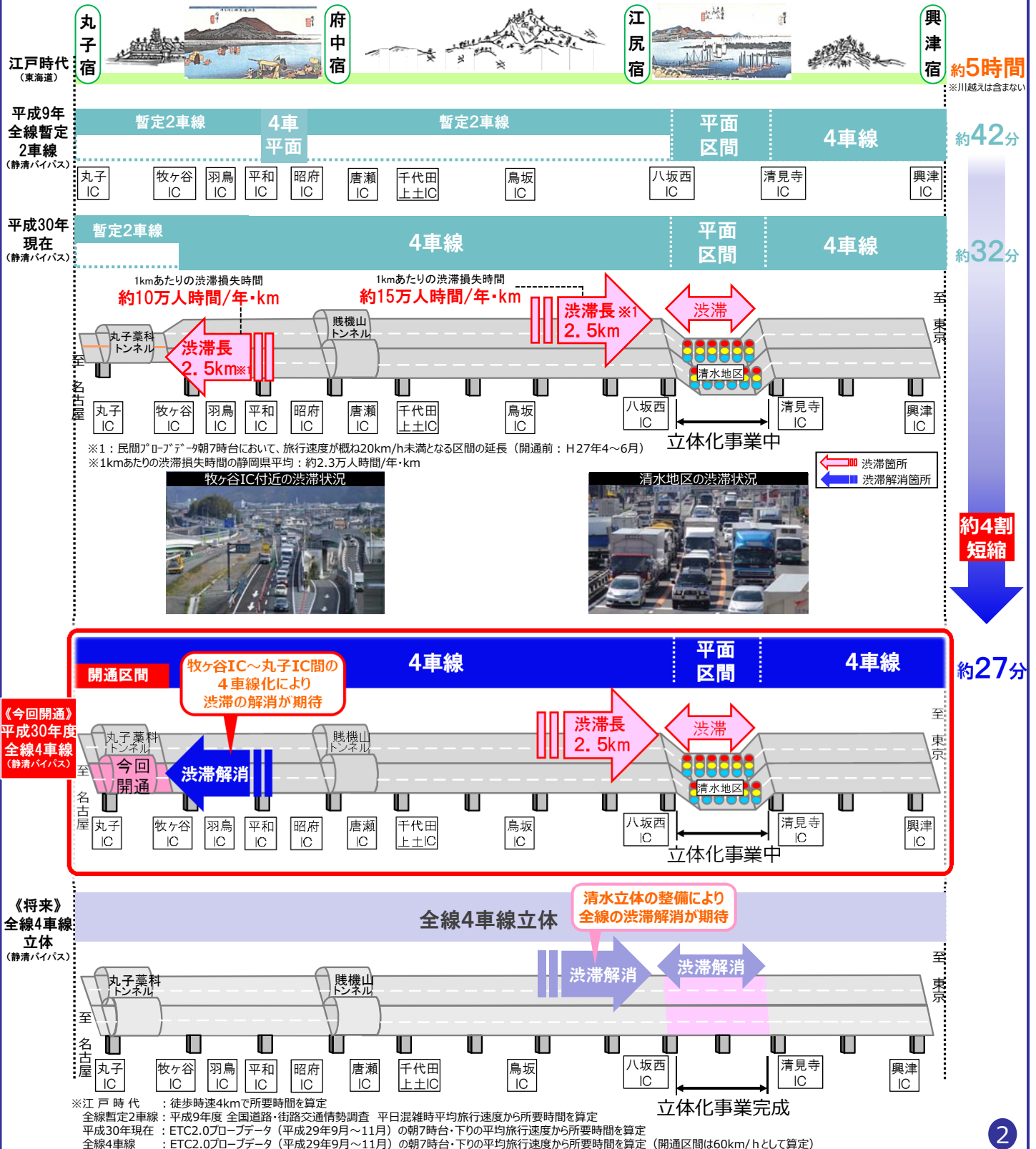
《位置図》



渋滞解消による通過時間の短縮

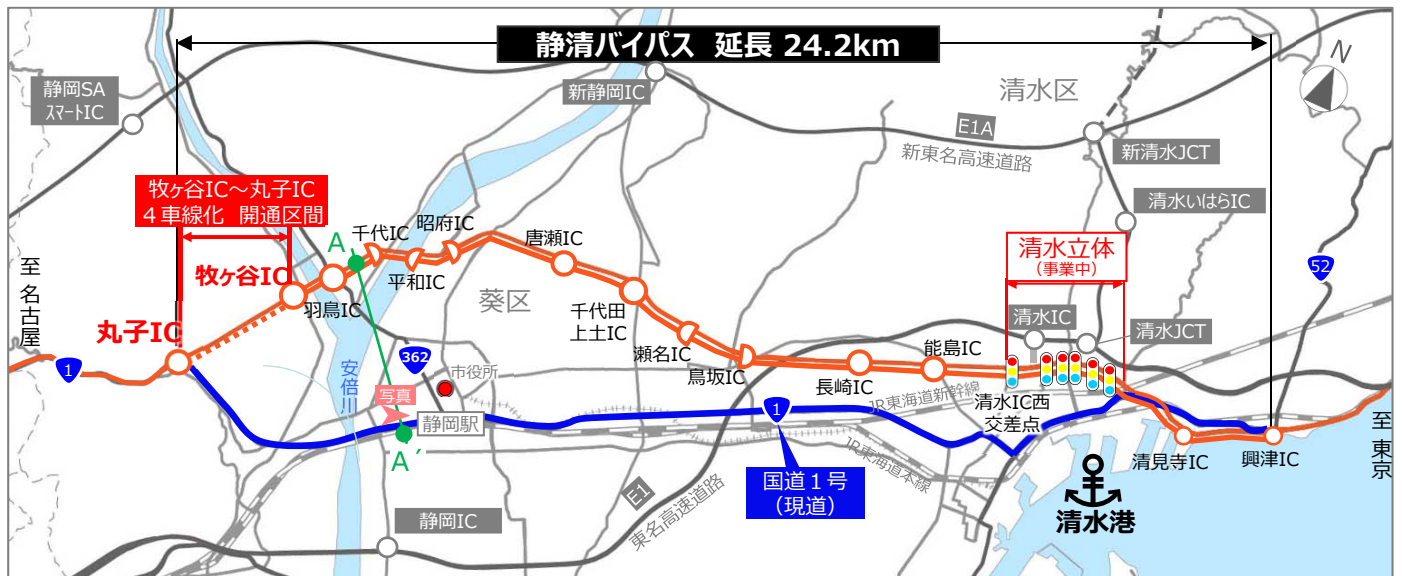
- 静清バイパス 牧ヶ谷IC～丸子IC間の開通により、全線4車線化となります。
- この開通により車線減少部の渋滞が解消され、全線2車線時に比べ、通過時間が約4割短縮します。
- 清水地区の立体化も、引き続き事業を推進します。

《東海道から静清バイパスの変遷》

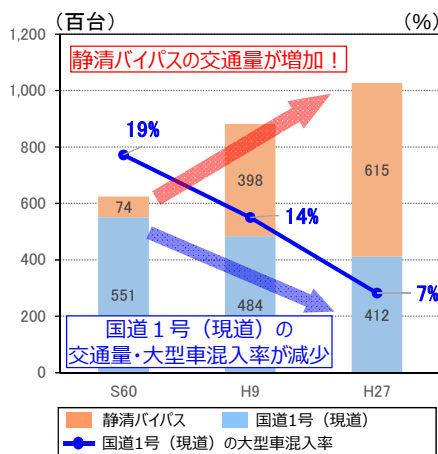


国道1号（現道）の交通環境改善

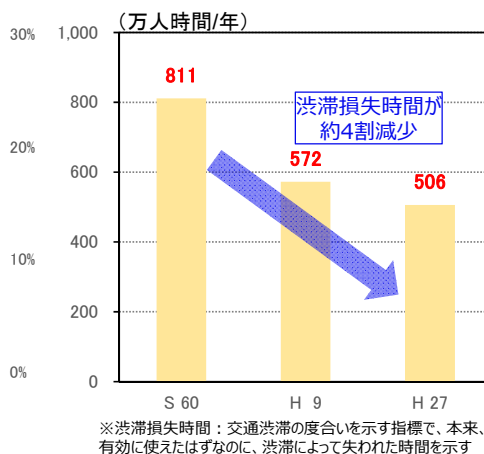
- 静清バイパスの整備に伴い、静岡市中心部の国道1号（現道）の交通量及び大型車混入率が大きく減少。
- 静清バイパスと国道1号（現道）で交通が分散し、渋滞損失時間が約4割減少。
- さらに国道1号（現道）の死亡・重傷事故件数が約6割減少するなど、交通環境の改善に寄与しています。



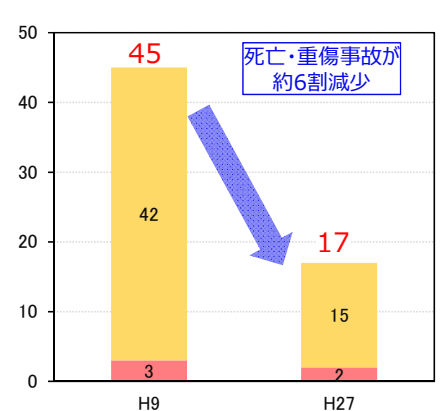
《断面交通量（A-A'断面）》



《国道1号（現道）の渋滞損失時間》



《国道1号（現道）の死亡・重傷件数》



資料：平成9年度 ITARDA交通事故統計データ
平成27年度 ITARDA交通事故統計データ

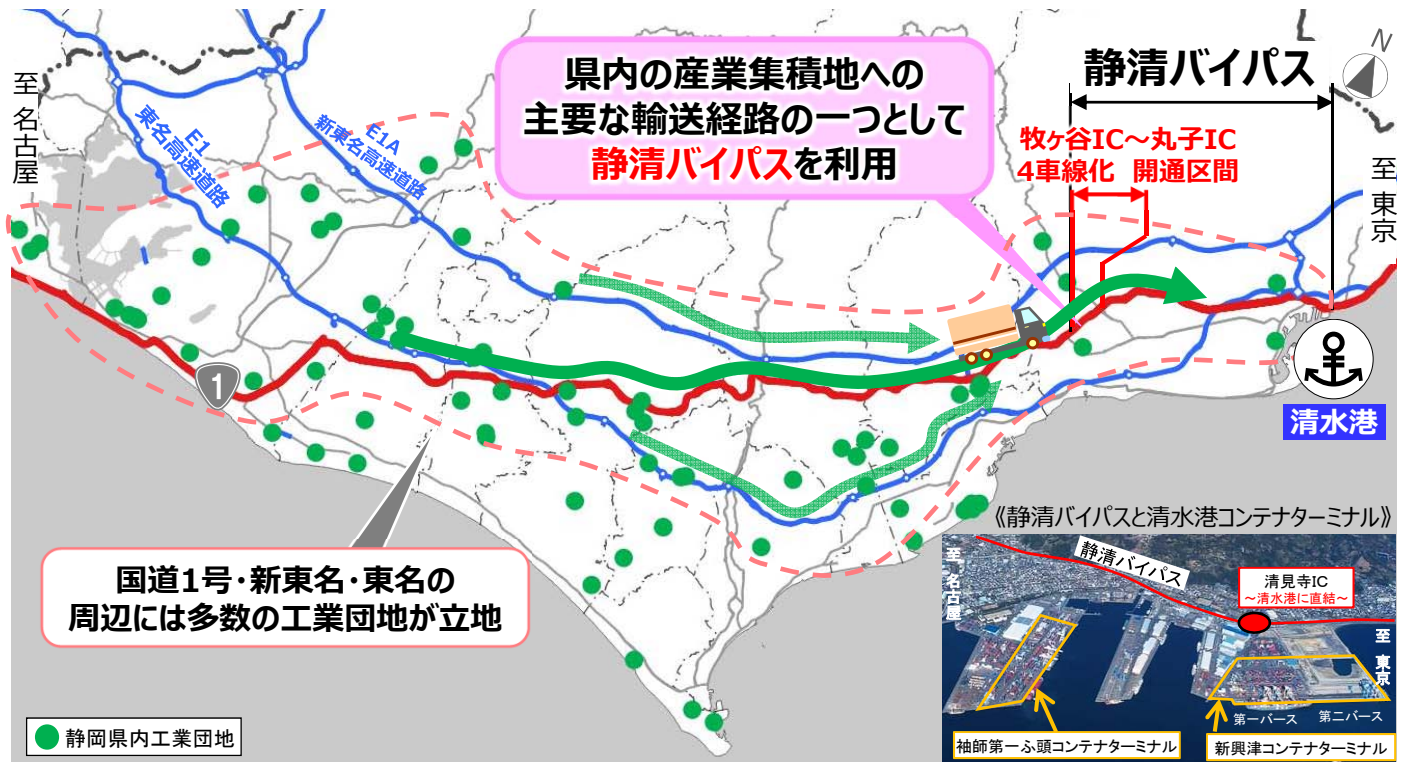
《国道1号（静岡駅付近）の交通状況》



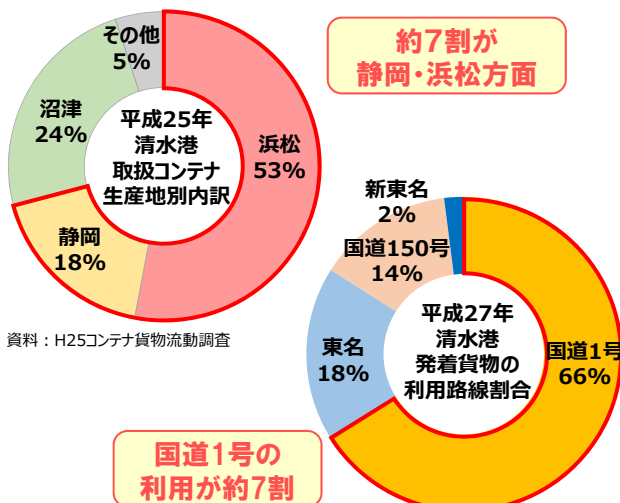
港湾物流の更なる活性化

- 清水港の取扱い貨物のうち、約7割が静岡県浜松市・静岡市から輸送されており、そのうち約7割が国道1号を利用。
- 静清バイパスや清水港のコンテナターミナルの整備により、清水港を発着する港湾物流が活性化され、静清バイパスを通行する**大型車交通量が増加**、全線4車線化により、更なる**港湾物流の活性化が期待**されます。

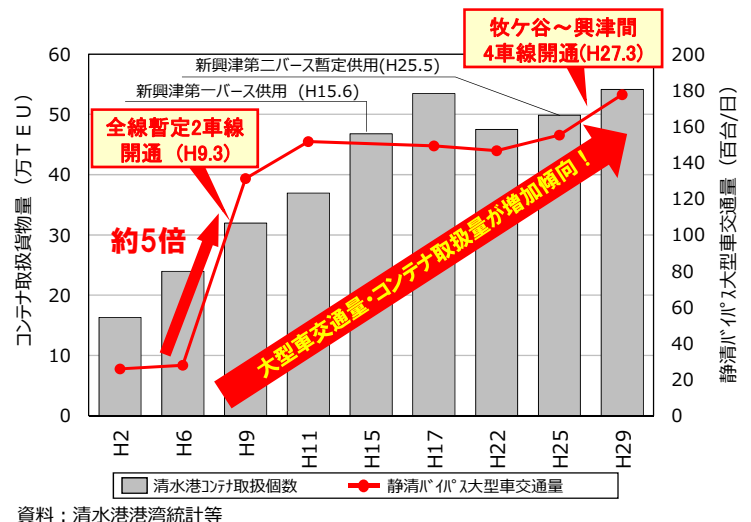
《浜松市～静岡市の工業団地立地状況》



《清水港取扱貨物の生産地》



《静清BP大型車交通量と清水港コンテナ取扱貨物量の推移》



《自動車関連部品製造企業の声》

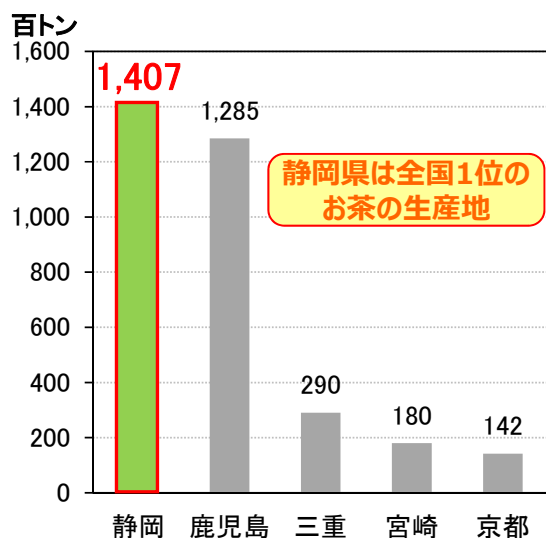
- ・製品の原料を清水港から入荷する際や、自動車関連部品を海外輸出等に静清バイパスを通行しています。
- ・静清バイパスの全線4車線化により、清水港へのアクセス性が改善に加え、ドライバーの負担軽減を期待しています。

※企業ヒアリング調査結果より

地場産業（緑茶）の活性化

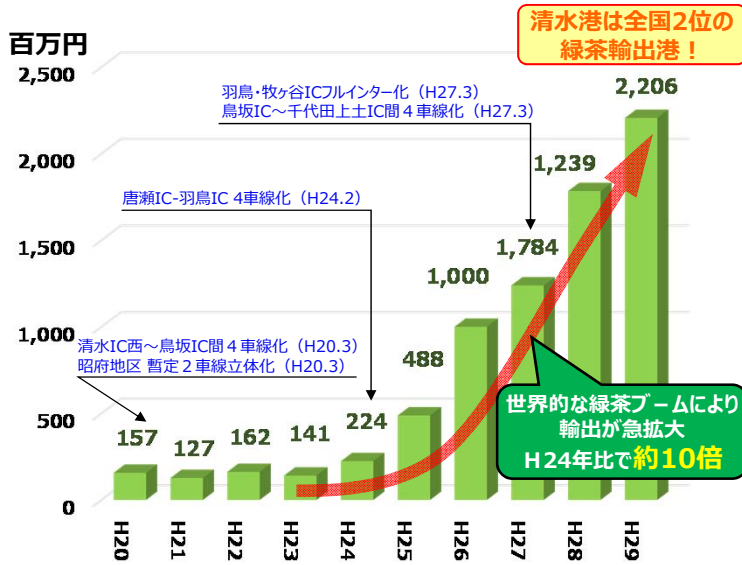
- 静岡県は全国1位のお茶生産量を誇り、近年、世界的な緑茶ブームの拡大に伴い、清水港は全国2位の緑茶輸出港に成長。
- 静清バイパスは、県内の緑茶の『生産地』『製造拠点』『清水港』を結び、全線4車線化により、更なる地場産業の活性化が期待されます。

《国内のお茶生産量上位5都府県》



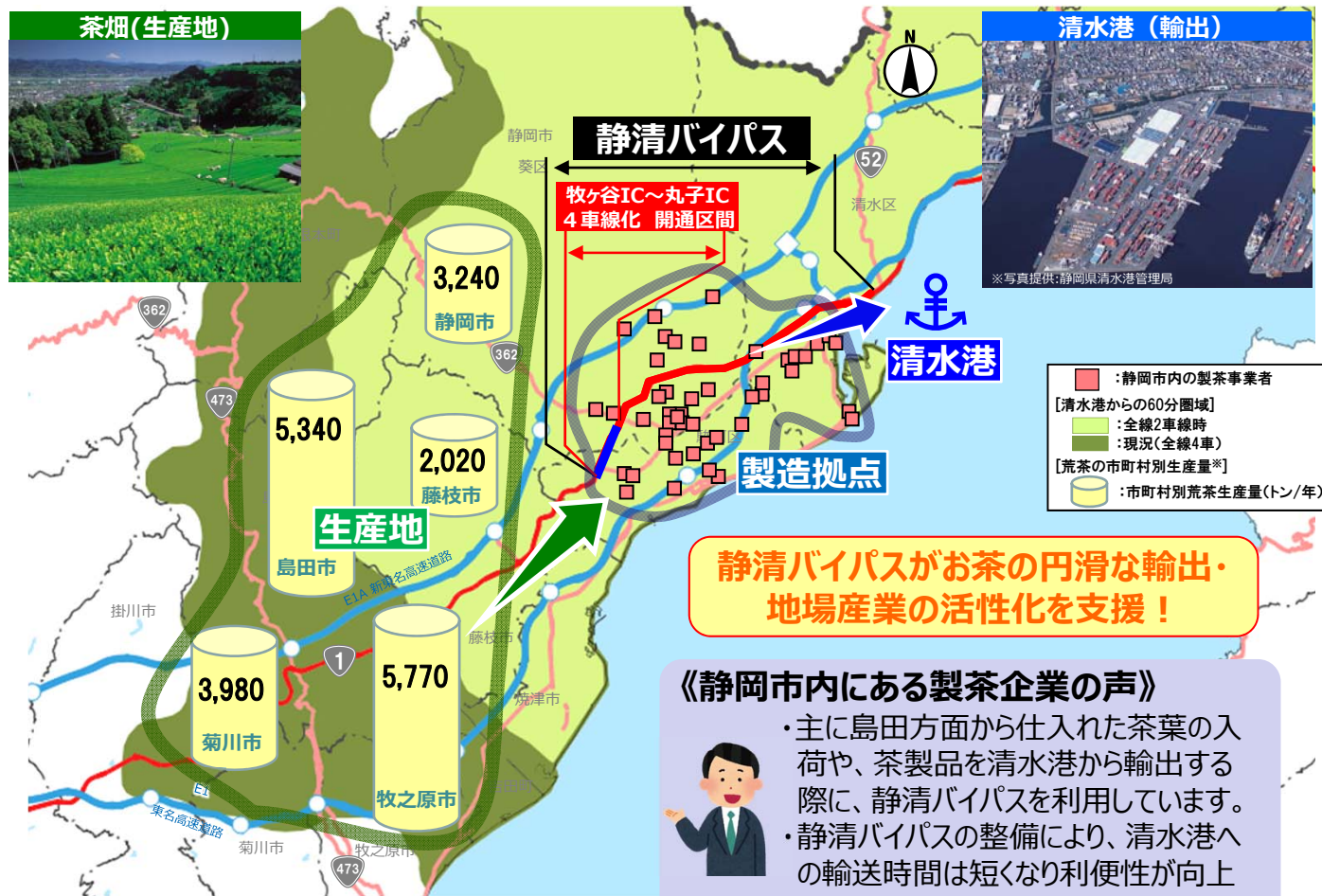
※出典：平成29年作物統計の茶の生葉収穫量

《清水港からの緑茶輸出額の推移》



※出典：財務省貿易統計（清水港より輸出される緑茶の総輸出額を集計）

《清水港の背後圏と緑茶の海外輸出の流れ》



※出典：静岡県茶業の現状

《静岡市内にある製茶企業の声》



- ・主に島田方面から仕入れた茶葉の入荷や、茶製品を清水港から輸出する際に、静清バイパスを利用しています。
- ・静清バイパスの整備により、清水港への輸送時間は短くなり利便性が向上しました。

※企業ヒアリング調査結果より